

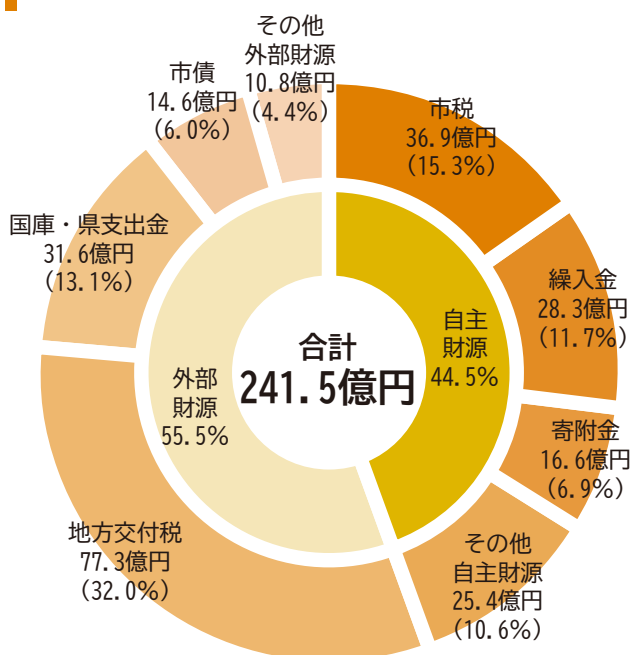
令和6年度 決算 を報告します

除雪にかかる費用が 過去最高額となりました

令和6年度の決算は、2月まで続いた大雪の影響により市道除雪委託料が膨らんだことやデジタル防災行政無線整備事業の開始などによる増加要因はありましたが、令和5年度に実施した財政調整基金から特定目的基金への積み替えによる基金再編の反動により歳入歳出とも対前年度比約7%の減となりました。

歳入 241.5億円 - 歳出 228.0億円 - 翌年度繰越金 = 11億円の黒字

一般会計 歳入 前年比△18.0億円(△7.0%)



歳入の前年比較

国庫・県支出金 +1.9億円

- ・特定事業に国や県から交付されるお金
除雪費用のための補助金や5月・7月豪雨に係る補助金、児童手当や保育園運営費に対する負担金の増加

地方交付税 +4.4億円

- ・行政サービス水準確保のため国から交付されるお金
人事院勧告に基づく給与改定対応分や臨時経済対策費の追加交付、大雪にかかる措置額の増加

繰入金 △26.2億円

- ・貯金(基金)を取り崩したお金
令和5年度に実施した基金再編に伴う反動減

寄附金 △4.5億円

- ・ふるさと納税寄附金など、市内外からの寄附
ふるさと納税制度において返礼品の基準見直しなどから寄附金が減少

令和6年度も全国の皆さんからの応援、返礼品取扱事業者のご協力により

ふるさと納税寄附金は総額14.4億円に!!

【主なメニュー別寄附額】

▶地域振興・観光・まちづくり・防災に関する事業	4億9,940万円
▶福祉・子育て支援等に関する事業	2億5,660万円
▶教育・文化等に関する事業	2億5,721万円
▶東京大学・東北大学宇宙物理学連携事業	7,620万円
▶飛騨市のこどもたちを大きく育むプロジェクト	7,402万円

【主な寄附金の活用】



学校作業療法士等による支援



子どもたちのスポーツ支援

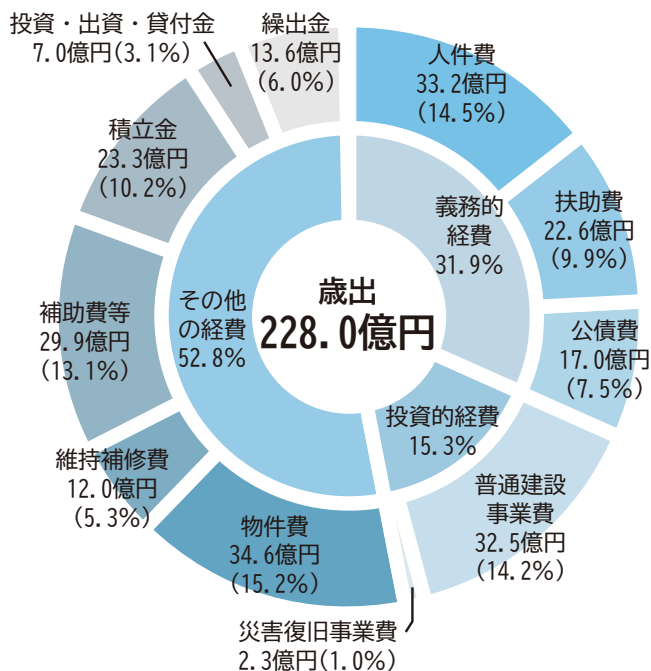


台湾新港郷との友好交流



茅葺き古民家修復事業

一般会計 歳出 前年度比△16.7億円(△6.8%)



道路除雪



宮川保育園移転改修工事

歳出の前年比較

扶助費 +1.5億円

- ・児童手当や生活保護、障がい者支援に対する給付など
定額減税調整給付金や物価・人件費の高騰などによる私立保育所運営負担金の増加。また、児童手当の支給額や対象年齢の引き上げに伴う増加

補助費等 +4.6億円

- ・個人・団体への補助金など
市内企業の投資を支援する企業立地・拡大促進事業補助金や市制20周年を記念したまちづくり事業への補助金などの増加

維持補修費 +5.9億円

- ・公共施設の修繕や道路除雪費など
道路除雪経費や融雪装置にかかる電気代の高騰による増加

普通建設事業費 +4.9億円

- ・道路や公共施設の整備費用など
デジタル防災行政無線整備や救助工作車購入事業、宮川保育園移転に伴う改修工事などの増加

災害復旧事業 +2.3億円

- ・自然災害により被災した施設の復旧費用
令和6年5月・7月豪雨により被災した市道や河川、急傾斜の復旧事業に伴う増加

公債費 △3.1億円

- ・これまでに借り入れたお金の返済金
合併特例事業債など過去に発行した市債の償還が順次終了したことによる減少

積立金 △29.2億円

- ・将来のために積み立てるお金
令和5年度に実施した基金再編に伴う反動減

特別・企業会計の状況

特別会計全体では実質収支額（歳入歳出の差引額から翌年度に繰り越す一般財源を除いた額）は、3億8,578万円となり健全な事業運営が行われています。

特別会計	歳入決算額	歳出決算額	実質収支額
国民健康保険	26億4,880万円	25億6,418万円	8,462万円
後期高齢者医療	5億107万円	4億9,902万円	205万円
介護保険	34億3,893万円	31億4,080万円	2億9,813万円
下水道污泥処理事業	1億7,277万円	1億7,276万円	1万円
駐車場事業	400万円	356万円	44万円
給食費	3,564万円	3,511万円	53万円
計	68億121万円	64億1,543万円	3億8,578万円

公営企業会計	収入決算額	支出決算額	資金剰余額
水道事業（収益）	5億6,634万円	4億8,407万円	12億3,954万円
水道事業（資本）	7,570万円	2億8,180万円	
国民健康保険病院事業（収益）	15億7,171万円	17億6,864万円	12億6,702万円
国民健康保険病院事業（資本）	3,006万円	1億6,047万円	
下水道事業（収益）	14億399万円	13億7,010万円	73万円
下水道事業（資本）	3億3,099万円	7億2,362万円	
計	39億7,879万円	47億8,870万円	25億729万円

※本表は歳入歳出決算額を万円単位で四捨五入表示しているため、数値が一致しないことがあります

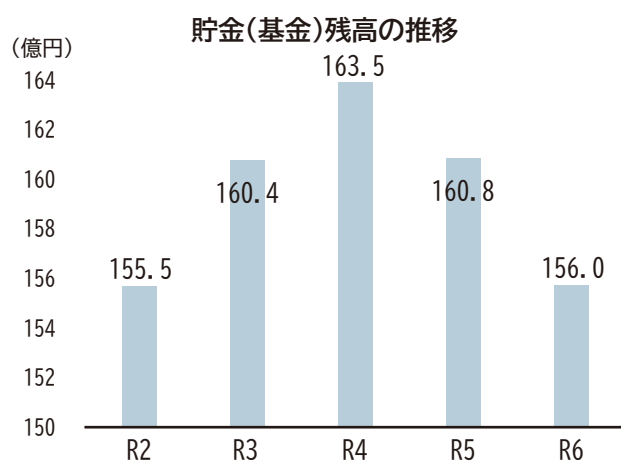
貯金・借金の推移



貯金（基金）の状況

古川消防署庁舎改修整備に公共施設管理基金を活用、また飛騨市クリーンセンター施設修繕には清掃施設整備事業基金を活用し、市制20周年記念事業には合併基金を活用しました。ふるさと創生事業基金では、寄附者の意向に沿った特色ある事業に活用しました。

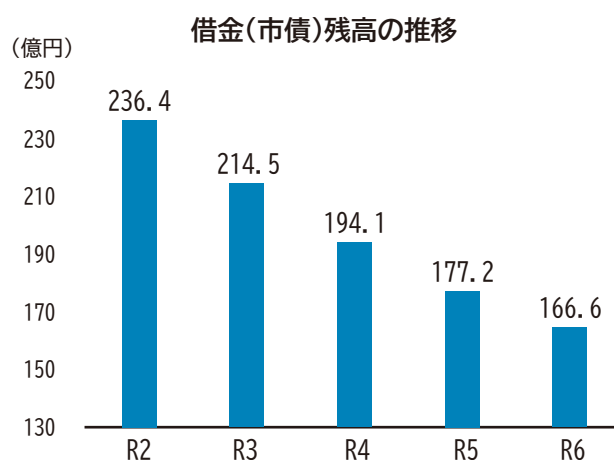
一方で、今後の活用に備え公共施設管理基金に1.6億円など合計4.1億円を積み立てました。基金の活用にあたっては残高状況と今後の活用見込みを調整しつつ適切な運用に努めます。



借金（市債）の状況

発行した主な市債は、流葉スキー場圧雪車購入事業やスクールバス更新事業などに充てた過疎対策事業債5億7,880万円、デジタル防災行政無線整備事業などに充てた緊急防災・減災事業債6億1,120万円、消防積載車・小型動力ポンプ購入事業などに充てた辺地対策事業債8,740万円等があります。

市債残高は令和6年度まで減少傾向が続きましたが、令和7年度以降は微増もしくは横ばいで推移していく見通しとなっています。

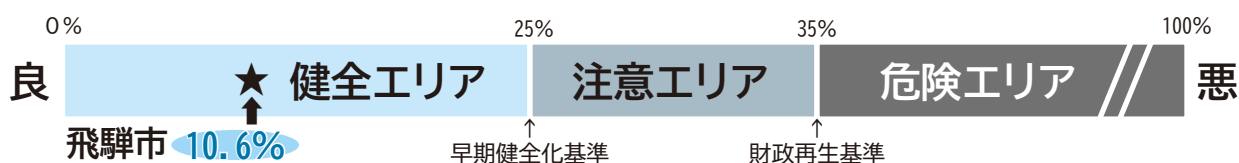


財政健全化判断比率等の状況

「地方公共団体の財政の健全化に関する法律」に基づき、市の財政状況を判断するための指標です。当市では、令和6年度も全ての項目で国の定める健全化基準を下回っており、財政の健全性が保たれています。今後も将来を見据えた堅実な財政運営に取り組めます。

健全化判断比率	R 6 数値	早期健全化基準	財政再生基準
実質赤字比率	—	13.25%	20.0%
連結実質赤字比率	—	18.25%	30.0%
実質公債費比率※	10.6%	25.0%	35.0%
将来負担比率	—	350.0%	
資金不足比率	—	経営健全化基準 20.0%	

※実質公債費比率…借入金の返済額などの大きさを指標化し、資金繰りの危険度を示すものです



審査意見総括

本市の財政は、健全な状態は維持されているものの、人口減少等に伴う地方交付税の見直しや物価高騰による経常経費の増加など財源確保の難しさは今後も続くと思われま。自主財源の確保に積極的に取り組むとともに、限られた財源を有効に活用し、財政規律と投資のバランスを図りながら、将来にわたり持続可能な財政構造の確立に努められたい。

8月25日 意見書を都竹市長へ提出する島田哲吉代表監査委員と水上雅廣議会選出監査委員▶

